

職員による自己評価

A 環境面

職員配置数について、基準の人数は満たしているが指導員の人数を3～4名体制にする事でより丁寧な支援を行えるよう、今後検討していきたい。また、指導員への研修等を実施していきたい。

整備についてビルの階段に手すりが設置されている。室内のバリアフリー化の配慮は必要。

B 業務改善

6月に開所し、初めてアンケートを実施。今後も定期的の実施し結果をHPに公開することで、業務改善につなげていきたいと考える。

C 適切な支援の提供

その日利用される児童について課題とされること、関わり方を職員間で確認し、準備を行なっている。

活動内容については偏りがないように新しい遊びを提案したり利用時間内で集団・個別と時間を調整したりして活動している。また、様々な経験や体験ができるような活動を今後も検討していきたい。

D 関係機関や保護者との連携

療育センターや学校、他事業所との連携・情報共有をしている。また、保護者の承諾のもと、活動内容・記録の共有もしている。

E 保護者への説明責任等

運営規定等は、入会時に口頭で説明し、文書を渡している。父母の会の活動、保護者会は未実施。今後、活動・会について検討していきたい。

F 非常時等の対応

避難訓練などは年2回行う予定。

入会時、保護者に感染症（予防接種の有無）・アレルギー等の確認を行っている。また、てんかんでかかりつけ医がいる場合、対処・連絡先を聞き、職員間で共有している。

保護者による評価

A 環境・体制整備

活動等スペース、職員数・専門性については問題なし。バリアフリーについては建物が階段の為、配慮を求める声も挙がっている。

B 適切な支援の提供

子どもや保護者のニーズに合わせてサービスの計画がされている。活動プログラムについても問題はない。児童クラブや児童館との交流は求めている。

C 保護者への説明等

保護者との面談や情報共有、助言については特に問題はない。保護者同士の連携を必要とはしていない。

D 満足度

子どもの通所、事業所の支援については満足している。

事業所内での分析

【共通点】

- ・ 支援の内容や情報の共有、利用者負担等について評価されている。
- ・ 児童や保護者との意思の疎通、情報伝達はなされている。
- ・ 事業所の設備について、教室のスペースは確保されているが、建物がバリアフリーではなく階段の利用であることから「どちらともいえない」。

【相違点】

- ・ 父母の会、保護者会の開催や児童クラブや児童館との交流について保護者から特に希望があらなかった。
- ・ 情報等の発信について、「どちらともいえない」ということがあげられていた。

分析・検討してみたて…

事業所の強み

- ・家庭との連絡手段で、メール・LINE等を活用することで、情報共有を迅速に行えている。また、事業所での活動について事細かく伝えられている。
- ・駅から近いこともあり児童のみで通所することが可能である。自立支援と社会参加の意義が果たしやすくなっている。また、到着・帰宅時にはご家庭に連絡を入れることで安心してもらえている。
- ・計画作成には、一人の意見に偏らないようにモニタリング等を定期的に行い、支援者間で意見を出し合っている。

事業所の改善点

- ・会報やHP等での活動概要や行事予定などの発信の頻度を上げることで保護者へ周知していく。
- ・ビルや教室内のバリアフリー化が必要。
- ・父母会の活動・保護者会について意向を確認していく。

事業所の改善への取り組み

- ・HPの更新やブログ等での広報活動を活発化していき、徹底した情報発信に努めていく。また月末に郵送しているお便りに広報情報を記載していく。
- ・バリアフリー化を推進していく必要があるため、ユニバーサルデザインの考え方を念頭に安全かつ円滑に過ごせるような教室作りをしていく。
- ・父母会、保護者会の活動については、意向の確認が必要。希望があった場合には開催等も検討していく。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

事業所の支援に満足しているに『はい』とお答えを多く頂き、またお子様も楽しみに通所をしているとの回答はこの上なく嬉しい限りです。

またサービス等計画についても、支援者間で話し合いをして作成したものを評価して頂けて良かったです。今後も保護者様との連絡を適宜行い、より適切な支援提供を行っていきます。

今後、定期的に評価していただき多くの意見を取り入れていくようにして、業務改善・強化に努めてまいります。

事業所名 オレンジスクール 藤沢教室

担当者 管理者 百田 まりあ